

2023年度 第2四半期連結決算説明資料

2023年11月10日

株式会社 西島製作所（6363）

【1】 2023年度第2四半期決算実績

【2】 2023年度通期決算見通し

【3】 トリシマの成長戦略 ～ネクストステージへ向けて～

2023年度 中間決算のポイント

- ✓ **受注**は、海外が引き続き好調で、**前年同期と同レベル**を維持。
- ✓ **受注残**は、**994億**円と過去最大。
- ✓ 売上は、海外の大型案件が寄与し、**大幅増収**。
- ✓ 人件費等の増加により販管費も大きく増えたものの、増収効果と安定的な利益率維持で、**大幅増益を確保**。
- ✓ **通期計画**に向けて、**順調に進捗中**。

2023年度 第2四半期決算概略

前年同期比

● 受 注 高	—	450億円	▲4億円
● 売 上 高	—	339億円	+88億円
● 営業利益	—	19億円	+9億円
● 経常利益	—	19億円	+7億円
● 親会社株主に帰属する 四半期純利益	—	13億円	+5億円

2023年度 第2四半期連結決算実績（連結）

受注:官需は10.1%増、民需は10.3%減、海外は2.6%減と微減となるも引き続き好調に推移し、全体では0.9%減の450億円とほぼ横ばい。
売上:官需は14.0%減、民需は29.7%増、海外は大型案件の売上計上が寄与し55.5%増で、全体では34.8%増の339億円。
利益：販管費の増加はあるものの、増収効果と安定的な利益率維持で、営業利益以下大きく増益。

* 増減は前年同期比

	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年同期比		2023年度 通期計画	進捗率
			増減額	増減率		
受注高	454	450	▲4	▲0.9%	700	64.3%
売上高	251	339	+88	+35.1%	750	45.2%
売上総利益 (売上総利益率)	71 (28.3 %)	96 (28.3 %)	+25 (±0pt)	+35.2%		
販管費	61	77	+16	+26.2%		
営業利益 (営業利益率)	10 (4.0%)	19 (5.6%)	+9 (+1.6pt)	+90.0%	68 (9.1%)	27.9%
営業外損益	+2	+0	▲2	▲100.0%	—	
経常損益	12	19	+7	+58.3%	63	30.2%
特別損益	▲1	+2	+3	—	—	
親会社株主に帰属する 当期純利益	8	13	+5	+62.5%	46	28.3%

単位：億円

期末レート（1USD）

2022/9末:144.81円

2022/9末:149.58円

想定為替レート:135円

2023年度 第2四半期連結決算実績（単体・子会社別）

■単体

単位：億円

	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年度比	
			増減額	増減率
売上高	191	263	+72	+37.7%
売上総利益 (売上総利益率)	41 (21.5%)	64 (24.3%)	+23 (+2.8pt)	+56.1%
販管費	37	48	+11	+29.7%
営業利益 (営業利益率)	5 (2.6%)	16 (6.1%)	+11 (+3.5pt)	+220.0%

- 官需が減収も、民需は好調、海外の大型案件が寄与し、大幅増収。
- 人件費等の販管費が増加したものの、増収と利益率の向上で吸収し、営業利益も大幅に増加。

■子会社*1

単位：億円

	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年度比	
			増減額	増減率
	96	117	+21	+21.9%
	32 (33.3%)	39 (33.3%)	+7 (±0pt)	+21.9%
	26	33	+7	+26.9%
	5 (5.2%)	6 (5.1%)	+1 (▲0.1pt)	+20.0%

- TSS（UAE）、TSSE（英国）、天津（中国）など規模の大きい子会社をはじめ、全体的に好調で21億円の増収を達成。
- 一方、人件費（為替影響含む）など販管費の増加も大きく、営業利益は1億円の増加にとどまる。

※子会社決算は子会社の連結調整前の数字となっています。そのため、単体+子会社=連結業績とはなりません。

【1】 2023年度第2四半期決算実績

【2】 2023年度通期決算見通し

【3】 トリシマの成長戦略 ～ネクストステージへ向けて～

2023年度連結決算見通し

通期計画は修正なし。売上高、利益ともに過去最高を見込む。

単位：億円

	2022年度実績	2023年度 上期実績	2023年度 通期見通し	進捗率
受注高	890	450	700	64.3%
売上高	647	339	750	45.2%
営業利益 (営業利益率)	59 (9.1%)	19 (5.6%)	68 (9.1%)	27.9%
経常利益	57	19	63	30.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	44	13	46	28.3%

為替レート

2023/3末:1\$ = 133.53円

1\$は135円、1€は145円を想定

■ 単体

	2022年度 実績	2023年度 上期実績	2023年度 見通し	進捗率
売上高	511	263	620	42.4%
営業利益 (営業利益率)	40 (7.8%)	16 (6.1%)	50 (8.1%)	32.0%

■ 子会社

	2022年度 実績	2023年度 上期実績	2023年度 見通し	進捗率
	210	117	210	55.7%
	16 (7.6%)	6 (5.1%)	19 (9.0%)	31.6%

※子会社決算は子会社の連結調整前の数字となっています。そのため、単体+子会社=連結業績とはなりません。

【1】 2023年度第2四半期決算実績

【2】 2023年度通期決算見通し

【3】 トリシマの成長戦略 ～ネクストステージへ向けて～

すべてのマテリアリティ（重要課題）に対する経営計画が順調に進行中

世界の潮流と社会課題

トリシマのマテリアリティ
(重要課題)

社会に貢献できる
製品・サービス

CO2の増加による
地球温暖化

エネルギーの転換

異常気象の増加・
水害の頻発

先進国での
インフラ老朽化

新興国での人口増加、
インフラ需要の拡大

水不足・食料不足

先進国での人口減少・
技術伝承の困難

価値創造の重要課題

1. 脱炭素社会実現に向けた
エネルギー課題への取組み

2. 安全・安心な社会の構築

3. データ・AIの活用による
新しいモノづくりとサービスの構築



基盤となる重要課題

4. 社員活力の最大化

5. ガバナンスの向上

6. トリシマ品質の継続的向上

① スーパーエコポンプによる省エネ推進

② 次世代エネルギー用ポンプの提供

③ 水不足・食料不足を解決する
ポンプの提供

④ 気候変動対策向けポンプによる
減災技術の推進

⑤ データに基づく
スマートメンテナンスの提供
→ 4Qで新製品投入予定

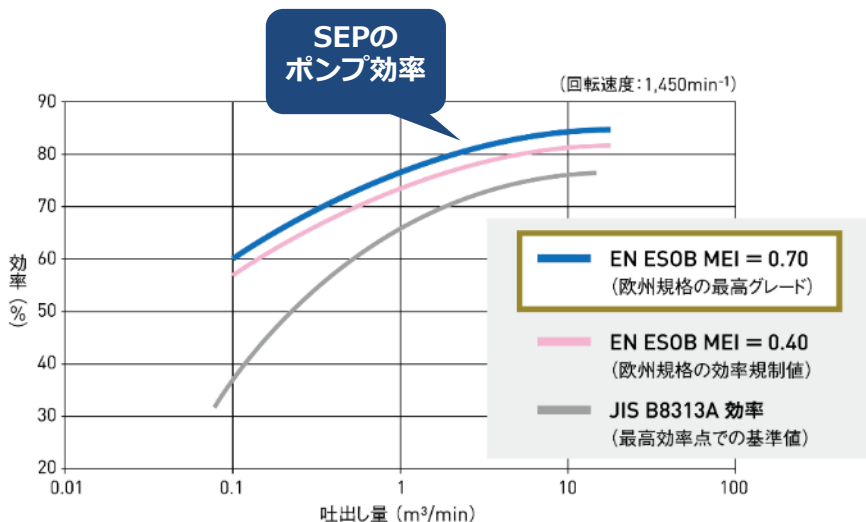
- ・ 人材育成とDE&Iの推進
- ・ コンプライアンス経営の推進
- ・ リスクマネジメントの強化
- ・ 環境経営の推進

めざす姿

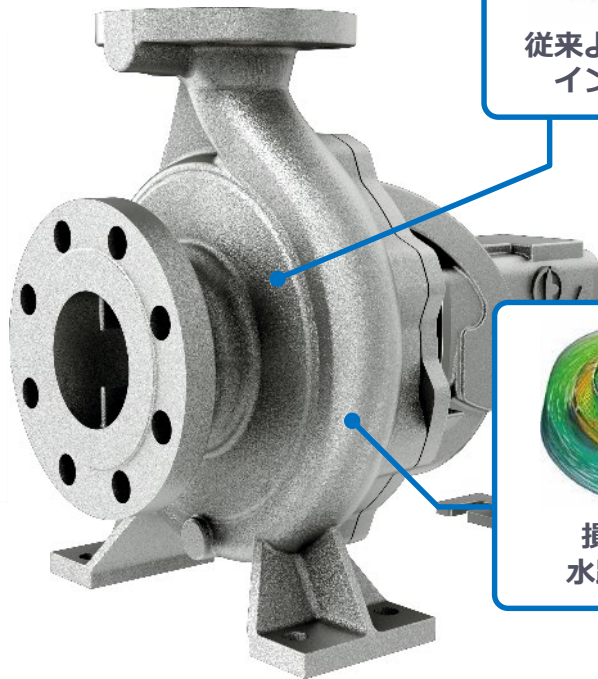
社会に欠かせない企業

スーパーエコポンプ®(SEP)販売開始

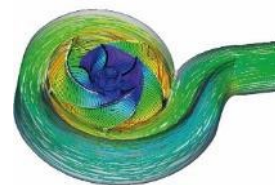
世界最高水準のポンプ効率MEI $\geq$ 0.70 達成！



※MEIとは
Minimum Efficiency Indexの略で欧州における最低効率指数。
0.10～0.70の数字で表示され、数字が大きいほど効率値が高いことを示す。



従来よりも高効率な
インペラを開発



損失の少ない
水路形状を実現

2023年10月

燃料アンモニア用ポンプの開発・製造 2027年の商用化に向けて、順調に進捗中



2023年7月

20%アンモニア混焼実証試験用ポンプを納入

燃料アンモニアポンプの大型化に向けて、

発電ポンプに100年の実績を持つトリシマと、キャンドモータポンプ世界大手のHERMETIC社
がタッグを組み、より高いレベルで市場のニーズに応えていきます。



10月24日、26日、東京と大阪で共同セミナーを開催。
200名以上の参加者が集い、期待の高さがうかがえました。



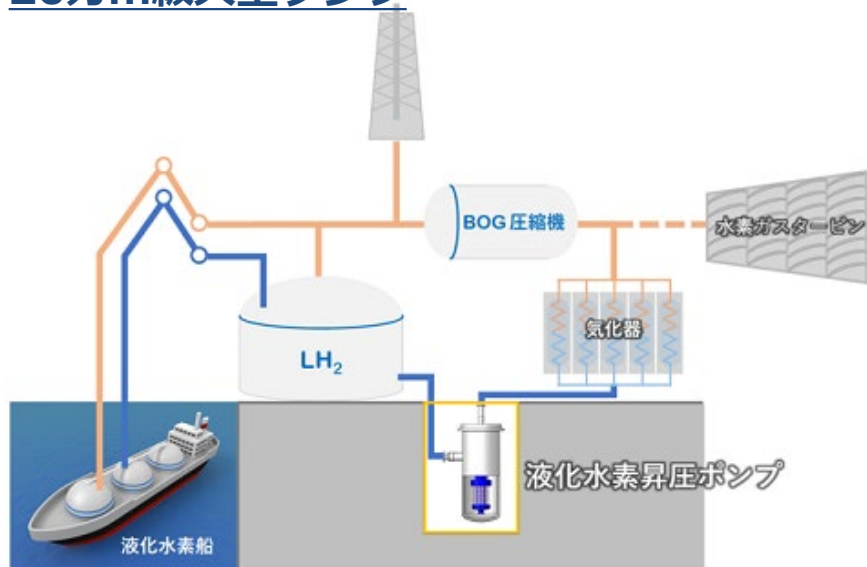
HERMETIC社について

- ・社名：HERMETIC-Pumpen GmbH
- ・創業：1866年
- ・事業内容：アンモニア用をはじめ、プロパン、エチレンなどの液化ガスを取り扱うキャンドモータポンプを製造するドイツの大手ポンプメーカー。キャンドモータポンプでは、60年以上の実績。

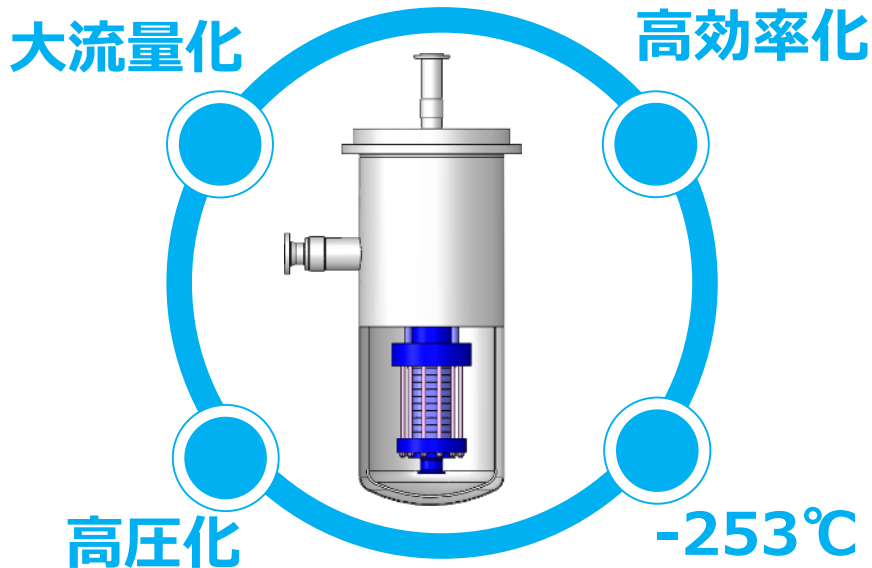
[公式ウェブサイト](#)

大流量・高圧・高効率な液化水素昇圧ポンプの開発について、NEDOの 「競争的な水素サプライチェーン構築に向けた技術開発事業」に採択

将来の商用水素受入基地イメージ
20万 m^3 級大型タンク



液化水素ポンプ開発の課題



事業テーマ：競争的な水素サプライチェーン構築に向けた技術開発事業／大規模水素サプライチェーンの構築に係る技術開発／大流量・高圧・高効率な液化水素昇圧ポンプの開発

実施者：株式会社西島製作所

事業の目的

水素サプライチェーンの「ためる・はこぶ」、「つかう」を橋渡しする液化水素昇圧ポンプを開発する。水素受入基地において現技術レベルではポンプが複数台必要であり、台数削減のため高圧化、大流量化が求められる。また、水素コストの低減のため、基地の大規模化及び機器の大型化が必要である。本事業では、将来の 20 万 m³ 級大型タンク基地を想定して、大流量・高圧・高効率な液化水素昇圧ポンプを開発する。

事業期間

2023 年度 ～ 2027 年度

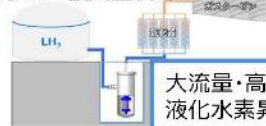
事業内容概略

本事業において、水素基地の大規模化に対応して、①中流量・中圧力ポンプ、②中流量・高圧ポンプ、③大流量・高圧ポンプ、④高効率モータ開発、⑤低コストモータ要素技術開発の 5 ステップで開発を進める。まず①では、中流量、中圧力の実サイズ多段ポンプ、新型高効率モータを開発して、信頼性、性能、機能を確認する。特に、実液で実サイズポンプを用いることのできる試験装置を開発し、信頼性を含めた検証を行う。②では、高圧化のための高回転速度化による、水力、軸受、モータの課題に取り組み、実サイズポンプで検証を行う。③では、大流量化した実サイズポンプを開発して、検証を行う。④、⑤のモータ要素技術開発と連携して、①～③に対応するモータを開発し、ポンプに搭載する。2027 年に低コスト化したモータを①に搭載して性能検証を行う。

事業イメージ

将来の商用水素受入基地イメージ

20 万 m³ 級大型タンク



大流量・高圧・高効率な
液化水素昇圧ポンプ

開発技術の概要

- ・自社開発新型モータによる高効率化、モータの低コスト化
- ・軸受の高信頼性とメンテナンスコスト低減
- ・流体加振力の小さい水力による高回転速度化・高圧化
- ・大流量化による高効率化

ポンプ

全体計画

事業内容	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
①中流量・中圧力ポンプ開発	開発、試験				
②中流量・高圧力ポンプ開発	要素開発		開発、試験		
③大流量・高圧力ポンプ開発			開発、試験		
④高効率モータ開発	①の開発、試験	②の開発、試験	③の開発、試験		
⑤低コストモータ要素技術開発		要素開発		開発、試験	

助成先

株式会社
西島製作所

共同研究先

国立研究開発法人
宇宙研究開発機構

実液試験を共に担当

国立大学法人
京都大学

公立大学法人
山陽小野田市立
山口東京理科大学

国立研究開発法人
物質・材料研究機構

モータ開発
で連携

2023年11月

- ✓ 初号機の製作完了。
- ✓ 社内に建設した**液化窒素による試験ループ**で試験予定
- ✓ 最終的には、実際に**-253℃の環境**で、**水素実液試験を実施予定**。

トリシマ本社工場に、
液化窒素による試験ループを建設中



JAXA実験場にて、
液化水素実液(-253℃)試験
を近々実施予定

近年のエジプトでの大型案件受注を受け、現地に土地を取得し、
メンテナンス工場を開設予定（2024年度）。エジプトを中心に**北アフリカ諸国全体で、**
 今後見込まれる**サービス需要**に万全の体制で応えていきます。

JETRO
日本貿易振興機構(ジェトロ)

海外ビジネス情報 サービス 国・地域別に見る 目的別に見る 産業別に見る

★ > [ビジネス情報 - ジェトロの海外ニュース](#) > [西島製作所、スエズ運河経済特区に送水ポンプ製造・保守施設設立へ](#)

ビジネス短信

西島製作所、スエズ運河経済特区に送水ポンプ製造・保守施設設立へ
(エジプト、日本)

2023年07月31日

エジプトのスエズ運河経済特区（General Authority of the Suez Canal Economic Zone, SCZONE）は7月24日、大阪府のポンプメーカーの西島製作所に対し、大型送水ポンプの組み立て・製造・メンテナンス施設設立のために、3万平方メートルの土地を割り当てると発表した。同施設はエジプトの大手電気設備メーカーのエルスウェディ・エレクトリック（Elswedy Electric）の子会社が干渉ける工業団地内に設置される。同社の発表によると、ポンプ組み立て・製造・メンテナンス施設としては、中東・アフリカ地域最大規模となる見込みだ。

エジプトでは、大型送水ポンプは下水処理施設や海水淡水化プラントで利用されており、西島製作所の製品はエジプトの施設でも採用実績がある（[2021年10月4日記事参照](#)）。現地報道によると、2021年時点でエジプトの下水道普及率は65%で、新規施設の建設も計画されている。また、海水淡水化についても、造水量増加のためのプロジェクトが発表されており、大型ポンプの需要増が見込まれる。

(塩川裕子)

(エジプト、日本)

エジプトのスエズ運河経済特区庁（General Authority of the Suez Canal Economic Zone, SCZONE）は7月24日、大阪府のポンプメーカーの西島製作所に対し、大型送水ポンプの組み立て・メンテナンス施設設立のために3万平方メートルの土地を割り当てると発表した。

2021年時点でエジプトの下水道普及率は65%で、新規施設の建設も計画されている。また、海水淡水化についても、造水量増加のためのプロジェクトが発表されており、大型ポンプの需要増が見込まれる。

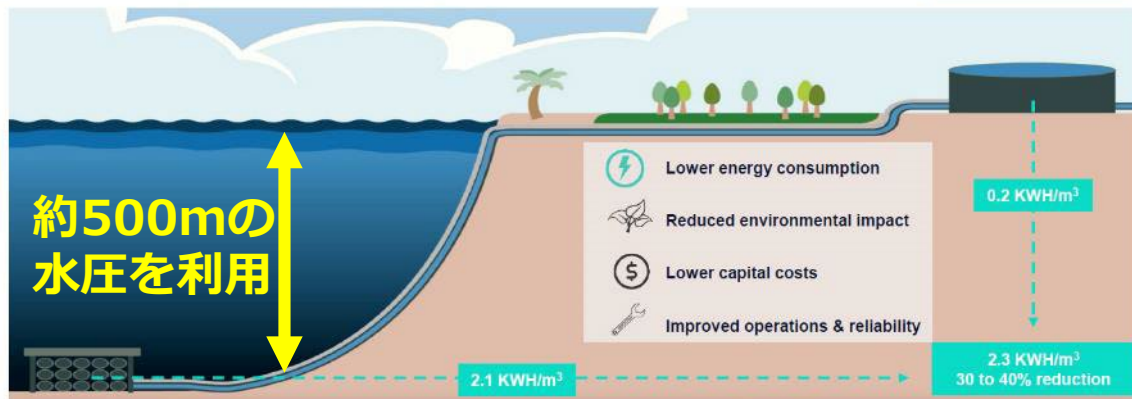
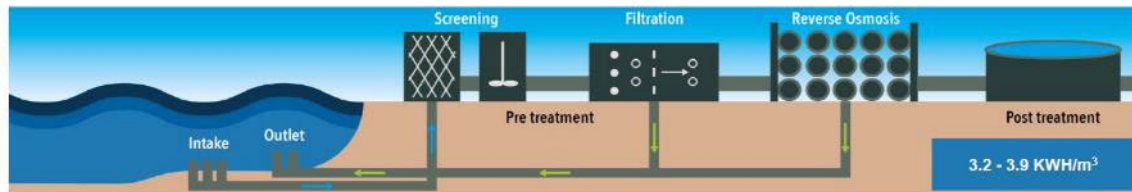
深海での海水淡水化プロセスで、ノルウェーのWaterise社と包括契約を締結

従来の陸上ROプラントに比べて、エネルギー消費量40%削減、必要な土地80%削減。

また、約500mの深海に設置するため、ROシステムの膜に入る海水は不純物を含まず、温度も一定なことから従来のプラントで必要とされる高いレベルの化学処理などの前処理工程が不要。

排出される濃縮海水の環境への負荷も大きく低減される環境に優しいシステムとなります。

Waterise資料より



トリシマは、Waterise社のROシステムに、**独占的にポンプを提供する戦略的パートナー**として契約。持続的な水の製造、供給に貢献していきます。

Strategic Partners (Waterise社公式サイトより)



Waterise社について

- ・社名：Waterise Solutions AS
- ・創業：2018年

海水淡水化市場に RO技術の革新的な利用をもたらすことをめざすノルウェーの企業。既存のRO技術とノルウェーの石油・ガス業界の深海でのノウハウを活用しています。

[公式ウェブサイト](#)



TMEIC・西島製作所のモーター一体型ポンプ、水密構造で内水氾濫対策



全3810文字

EdgeTech+に出展！組み込みシステムのIoT化に貢献する半導体製品を紹介 [PR](#)
 最大100Wで急速充電を実現！Qi対応・高出力ワイヤレス充電ソリューション [PR](#)
 リスクを低減する最適な設計。総システムコストの削減。迅速な商品化の実現。 [PR](#)

東芝三菱電機産業システム（TMEIC、東京・中央）と西島製作所は、水害時の排水設備向けポンプシステム「風冷式耐水モーター一体型ポンプ」を製品化した（図1）。このシステム自体が水没しても運転の継続を可能にしたのが特徴。2022年3月に初号機を納めて以降、受注の拡大に努めている（図2）。



図1 「風冷式耐水モーター一体型ポンプ」の外観
 モーター部分が水没しても運転を継続する。2022年3月に初号機を納入した。（写真：西島製作所）
 [画像のクリックで拡大表示]

モータ最大手の一社、

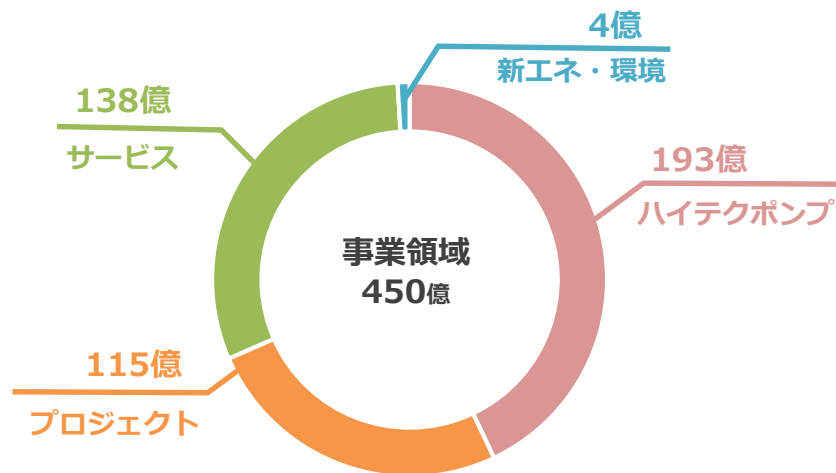
TMEIC社（東芝三菱電機産業システム株式会社）と

「風冷式耐水モーター一体型ポンプ」を共同開発。

[日経XTECウェブサイト](#)

參考資料

事業領域及び需要先（2023年度第2四半期受注高実績）



ハイテクポンプ

発電所や海水淡水化プラント、上下水道施設、かんがい施設など向けの大型ポンプ（エンジニアリングポンプ）及び一般産業向けのエコポンプ（小型標準ポンプ）。

プロジェクト

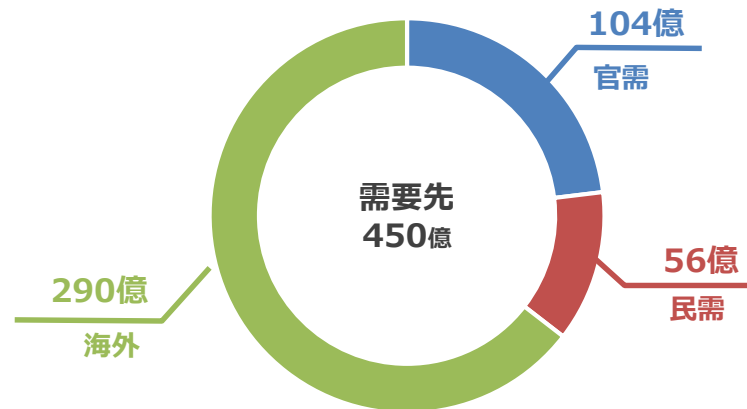
上下水道、かんがい、排水ポンプ場におけるポンプ設備全体のEPC（設計・調達・建設）案件。

サービス

既存ポンプ及びポンプ設備の取替え、保守点検、REDU（Re-Engineering & Design Up）、SV（スーパーバイザー）の派遣、部品交換など。

新エネルギー・環境

風力発電や小水力発電の導入における設計・施工・メンテナンス。
環境装置（農業集落排水向け真空式下水道収集システム）



官公需

日本国内の国及び地方公共団体向け。上下水道施設、排水施設及びかんがい施設など。

民需

日本国内の民間企業向け。火力発電所（事業用、バイオマス発電やごみ焼却発電、自家発電含む）、一般産業の各種工場、ビル設備、商業施設など。

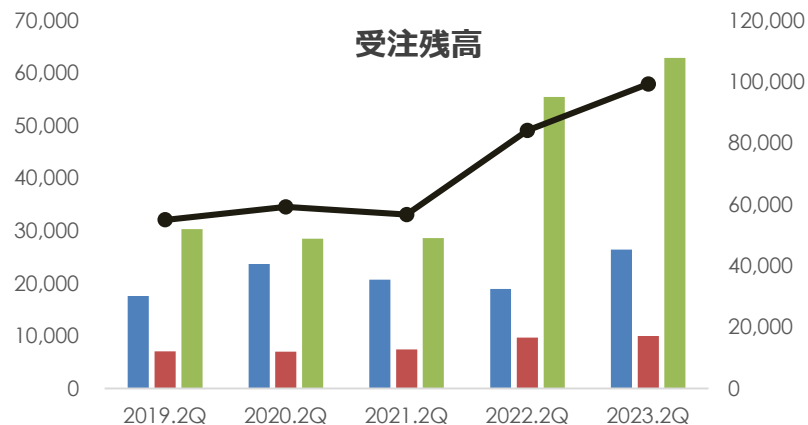
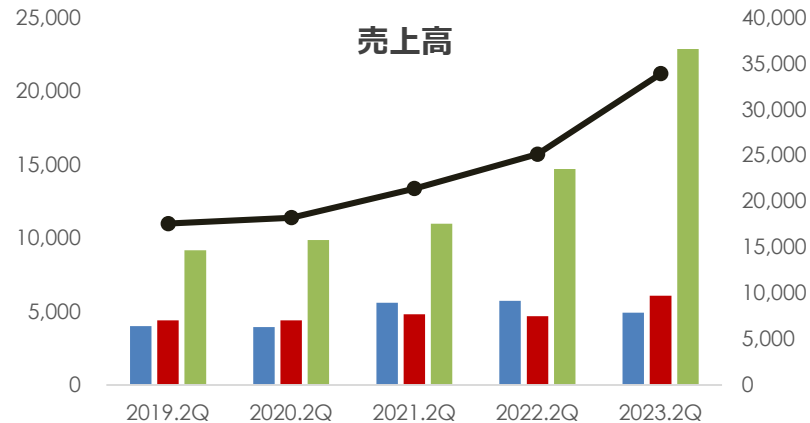
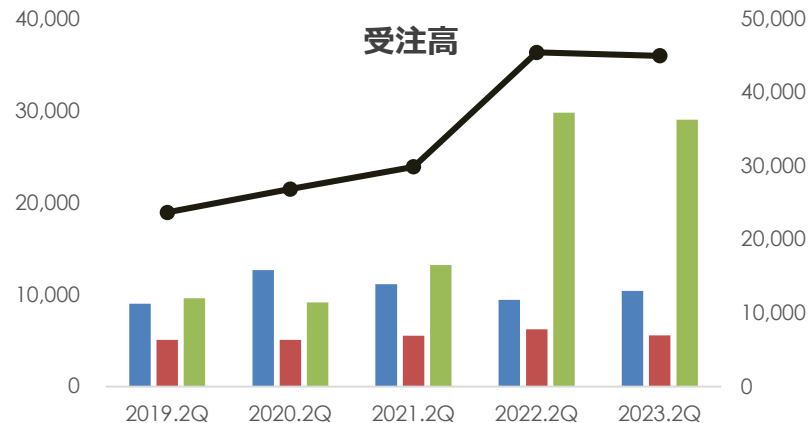
海外

海外向け海水淡水化プラント、火力発電所、上下水道施設かんがい施設など。

需要先別受注高・売上高・受注残高

		2022年度2Q			2023年度2Q		
		受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
官 需		9,426	5,742	18,956	10,379	4,937	26,422
	前年増減率	▲15.3%	2.5%	▲8.4%	10.1%	▲14.0%	39.4%
民 需		6,211	4,687	9,721	5,571	6,080	9,990
	前年増減率	12.9 %	▲2.5%	31.0%	▲10.3 %	29.7%	2.8%
海 外		29,794	14,700	55,540	29,011	22,859	62,957
	前年増減率	125.2%	34.0%	94.0%	▲2.6%	55.5%	13.4%
合 計		45,432	25,130	84,219	44,961	33,877	99,369
	前年増減率	52.1%	17.5%	48.4%	▲1.0%	34.8%	18.0%

受注高・売上高・受注残高の推移（需要先別）



単位：百万円

左軸

■ 官需 ■ 民需 ■ 海外

右軸

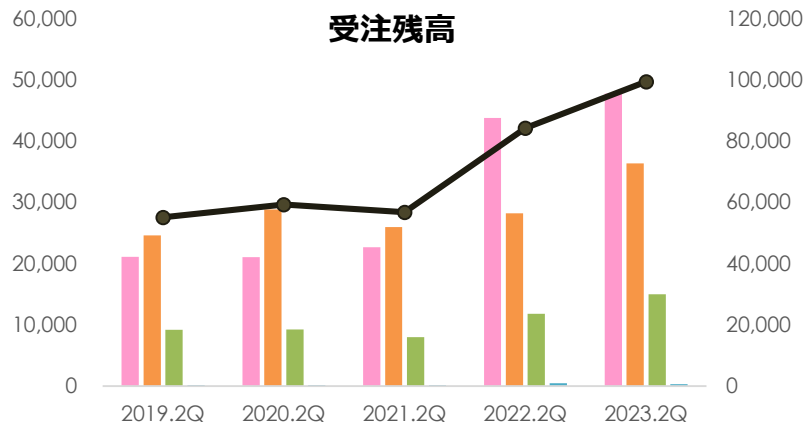
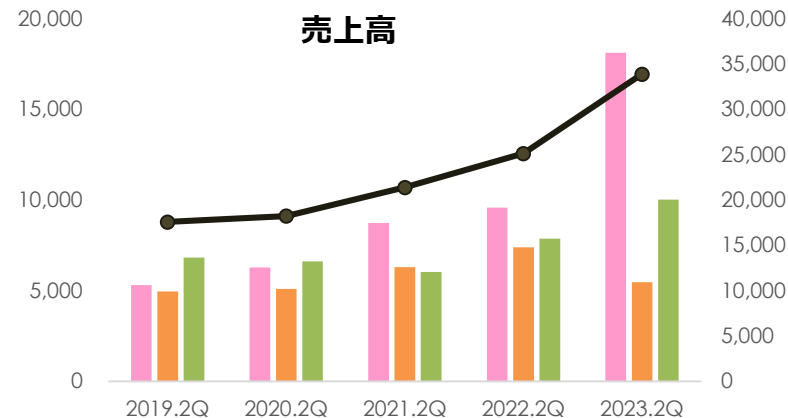
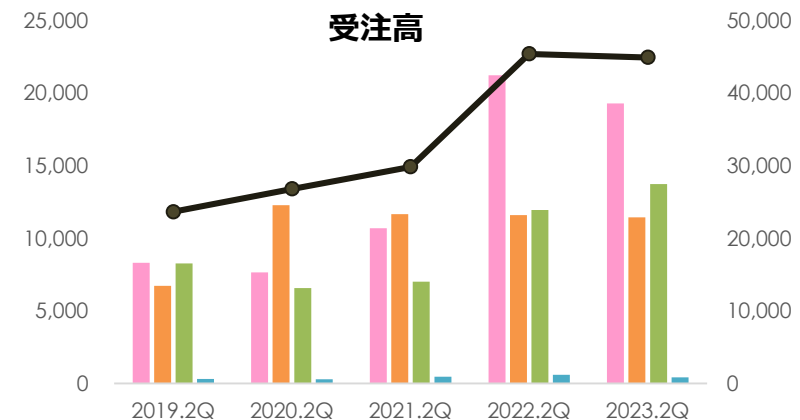
● 合計額

事業分野別受注高・売上高・受注残高

単位：百万円

		2022年度2Q			2023年度2Q		
		受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
ハイテクポンプ		21,253	9,573	43,757	19,318	18,120	47,737
	前年増減率	98.6%	9.7%	93.3%	▲9.1	89.3%	9.1%
プロジェクト		11,601	7,383	28,203	11,456	5,459	36,341
	前年増減率	▲0.6%	17.4%	8.6%	▲1.2%	▲26.1%	28.9%
サービス		11,971	7,866	11,784	13,749	10,021	14,970
	前年増減率	70.5%	30.4%	47.7%	14.9%	27.4%	27.0%
新工ネ・環境		607	309	475	439	278	322
	前年増減率	29.1%	▲8.6%	189.6%	▲27.7%	▲10.0%	▲32.2%
合 計		45,432	25,130	84,219	44,961	33,877	99,369
	前年増減率	52.1%	17.5%	48.4%	▲1.0%	34.8%	18.0%

事業分野別受注高・売上高・受注残高（百万円）



単位：百万円

左軸

■ ハイテクポンプ ■ プロジェクト
■ サービス ■ 新エネ

右軸

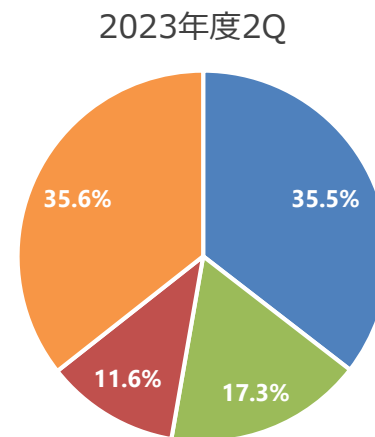
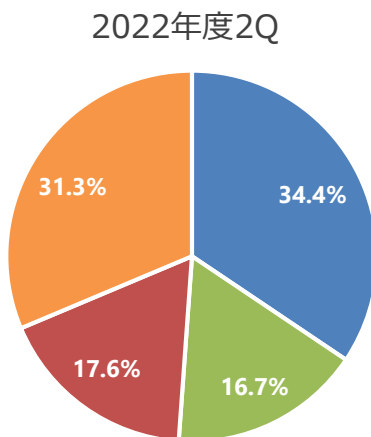
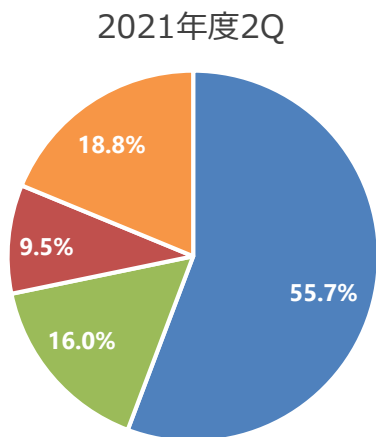
● 合計額

地域別受注高

単位：百万円

	日本	海外全体	海外内訳			合計
			アジア	中東	その他	
2021年度 第2四半期	16,658 (55.7%)	13,228 (44.3%)	4,788 (16.0%)	2,831 (9.5%)	5,609 (18.8%)	29,886
2022年度 第2四半期	15,637 (34.4%)	29,795 (65.6%)	7,599 (16.7%)	7,958 (17.6%)	14,238 (31.3%)	45,432
2023年度 第2四半期	15,950 (35.5%)	29,011 (64.5%)	7,766 (17.3%)	5,234 (11.6%)	16,011 (35.6%)	44,961

■ 日本
■ アジア
■ 中東
■ その他

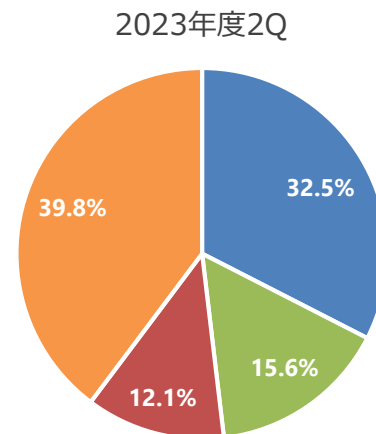
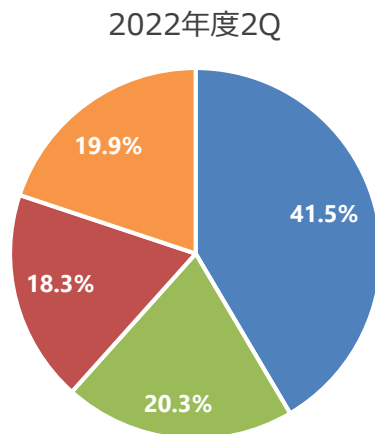
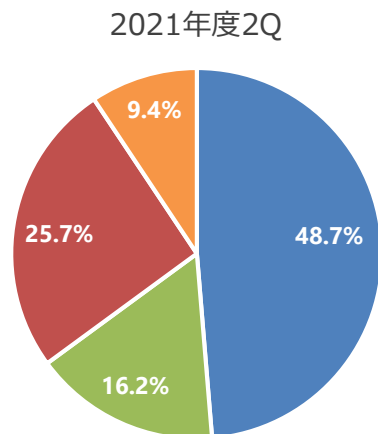


地域別売上高

単位：百万円

	日本	海外全体	海外内訳			合計
			アジア	中東	その他	
2021年度 第2四半期	10,411 (48.7%)	10,972 (51.3%)	3,474 (16.2%)	5,497 (25.7%)	2,001 (9.4%)	21,383
2022年度 第2四半期	10,429 (41.5%)	14,701 (58.5%)	5,058 (20.3%)	4,646 (18.3%)	4,997 (19.9%)	25,130
2023年度 第2四半期	11,018 (32.5%)	22,859 (67.5%)	5,283 (15.6%)	4,109 (12.1%)	13,467 (39.8%)	33,877

■ 日本
■ アジア
■ 中東
■ その他



本資料の業績などに関する将来の予想、見通しなどは現時点で入手可能な情報に基づき算出したものです。

したがって、実際の業績は今後の様々な要因によって、異なる結果となる可能性があることをご了承ください。

【お問い合わせ先】

株式会社 西島製作所 総務部 I R広報課
Tel : 072-695-0551
Email : ir-torishima@torishima.co.jp